

# しずおか大道芸新聞

第15号



路上で無許可で行っている大道芸を、商店街や警察の許可を得て行いたい。その思いを実現させるため、「しずおか大道芸のまちをつくる会」を中心に静岡市や大道芸ワールドカップ実行委員会・市内各商店街など関係各者が歩行者天国で大道芸を行うに当たっての様々な問題（責任の所在・ケガをした時の保険等）などを長い時間話し合ってきた結果、ようやく実を結んだ。

○五年三月五日（土）・六日（日）。あいにく小雨が時折降り、またそれまでの暖かい気候とはうってかわって肌寒い日。しかし、そんな天気も何のその！と言わんばかりに、両日併せて七組のパフォーマーが開放された歩行者天国でのびのびとパフォーマンスをした。

場所は静岡駅から徒歩で十分ほどにある「けやき通り」。昨年から大道芸を丸井静岡店前で行ってきたが、正にその店舗前の通りだ。今回、伝馬町一帯の「電線地中化」と「舗道整備完了」を記念して「春一番!!大道芸inけやき通り」と言うイベントが行われ、そのイベントを皮切りに歩行者天国が開放されたのだ。

出演者からこのようなコメントをもらった。

「街中で大道芸を始め僕自身は三年半程になる。その中でも三月六日の大道芸は思い出

深い一日となっている。この気持ちをつまでも忘れず僕の芸を見て楽しんでくれる人の為にも精進していきたい」  
(もーり)

「記念すべきイベントに参加できとても光栄でした。今、全国には静岡のように申請をして大道芸が許可される都市はほとんどありません。静岡のストリート大道芸を十年後二十年後も続けられるよう、僕たち芸人も素敵なショーをお届けし、がんばっていきま

す。もっと市民の皆さんにとって大道芸が身近なものになって欲しいです」  
(ももっち)

開放されたといっても無条件で開放されたわけではない。「やりたい時にいつでもできる」とはまだなっていないのだ。大道芸をした時は事前に申込みしてもらわなければならないなど、目指している形とは少し離れている。また市内の全ての商店街が大道芸に肯定的でないのも確かだ。

それら全ての課題が解決するのにはまだ多少時間がかかるかも知れないが、大道芸を見に来てくれる方・そして楽しい時間を与えてくれるパフォーマーの為に話し合いを継続していき、名実ともに「大道芸の街・静岡」となれば、と願っている。

【文 ミーコ】  
【写真 チャリ】

# 街を漂う物体

③

ねにゑ 調査報告書

ねにゑ情報を追って静岡よりも東の地へやってきた私は、桜えびの水揚げ日本一の街・由比で毎年十月に行われる由比宿祭りの中で、以前ちんどん屋に混じって歩き回る謎の物体がいたとの情報に行き当たった。私の直感はその何であるかを理解していた。「…ねにゑだ」しかし、街の人はねにゑという言葉すら知らなかった。ねにゑと思われるその謎の物体は、例のチラシ、ねにゑ、を由比では一枚も配っていないかったようだ。その後ねにゑの足取りは一切つかめず、気づけば二年もの時間が過ぎ去っていったが、それでも私の中に煮えたぎる好奇心は消えることがなかった。

そんなエリアを入念に調べることになった。しかしそれらしい情報も得られず、私はお祭りの人通りがなんとなく途絶える場所まで行き着いてしまった。目の前に見えるのは浅間神社。今日はここでもお祭りをやっているようだ。

と、その時。私は信じがたい光景を目の当たりにした。神社前の通りにできた小さな子供の輪。その輪の中心には、全身黄色の動く物体。



「…ねにゑ?!」

私がそれまで得た情報とは少し違ったが、明らかに得体の知れない物体がそこにはいた。体が小さいがおそらく巨大化する前の状態が離れた隙を見て物体に近づいた。「や」と会えたな、ねにゑ。物体は、ピタッと止まった。動揺しているのか、もぞもぞし始めた。「教えてくれ、お前は一体何を…」物体の動きがまた止まった。まもなく物体から何か紙切れが出てきた。

「!」私は警戒し一歩引いた。「これがチラシ、ねにゑか?」そうなのか。私はそれを手に取り、何重にも折り曲げられた紙切れを開き、中をのぞいた。そこに書かれていた言葉は:

「ラッキー」

ただ静かに笑うしかなかった。「なんでですかこれは?」そうつぶやきうなだれる私に子供が話しかけてきた。「おみくじだよ」おみくじ。ねにゑは占いもやるのか? 私は訳が分からなくなってきた。「だるまさん、おみくじちょうだい」子供が物体にそう話しかけた。「だるま?」私は子供に尋ねた。「これのどこがだるまなんだ?」「だつてほら」子供は通りのさらに奥を指差した。その指の先に、私の探していた答えがあった。(続)

◇引き続きねにゑ情報を広く求む。

問い合わせ先

daburiki@hotmail.com

【文・イラスト S.A】

## あまるラボ始動

「『実験的』という部分を強調したいですね」これまで路上を舞台としてきた大道芸人あまるはそう語った。○五年二月二十六日(土)

寒々とした屋外を尻目に、あまるの初の試みは実行された。舞台となったのは静岡市の表現空間「伽藍博物館演劇実験室」。あまるは、大道芸で麻痺しがちになる「見られている感覚」をより研ぎ澄ますため、観客が集中できる「箱」の中で実験的に自分のパフォーミングを披露することを目的に掲げた。舞台裏スタッフは、ポイのパフォーマー・ミーコ。「何かを一から作り上げていくことに以前から興味があった」と話し、この実験の命となる照明と音響を担当した。

パフォーミング構成はあまるが制作した作品の二本仕立てである(それぞれ約三十分)。一つ目の作品は、大道芸でも披露している「コメディホラー寸劇」。三年前に創作活動を開始してから着実に進化してきた寸劇である。本公演では「箱」ならではの要素「照明」を随所に用いて、内容もパワーアップした完成版として公開された。



「スランプ悲劇」。これはパントマイムやジャグリングが加わった寸劇であり、二年も前に構想は出来ていたと言ふ。しかし作品には自信があるものの、大道芸としてやるには成立するのかどうかといった疑問があったため、今回の「あまるラボ」を最初の発表の場とし観客の反応を見たい、という思惑があったようである。従って「スランプ悲劇」はこれが初公開となる。

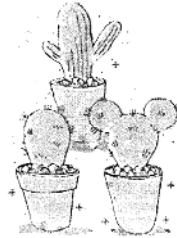
本番当日、公演は十五時からと十八時からの計二回行われた。二回目は一回目の倍以上の観客で会場内が賑わい、中には丸井前に大道芸をしに来ていたりスポン上田さんと渡辺あきらさんの姿も見られた。公演後の感想をあまるに聞くと、こう答えた。「良かった点は狙ったところで笑いがとれたことです。悪かった点は、アンケートを見てわかりましたが、後ろの席の人にも(舞台上の様子が見えるという環境作りができていなかったことでしょうか)」

観客の中には「ダブチキ時代からファンなんです」と語りながら公演に二回とも足を運ぶ人々も見られ、公演終了後、観客は皆楽しんで帰っていたように思われた。ただ、帰り際に観客から回収したアンケートには、あまるの言う「悪かった点」に関しての記述も多少見受けられたようだ。特に劇の前半を占めるコメディホラー寸劇では、舞台上に置かれた道具が視界に入らないと、劇全体の流れを楽しむことは難しかったかもしれない。しかしそれらの意見があつたにせよ、上演中の観客の笑いは会場内に満ち溢れていた。また「あまるラボ」では投げ銭方式という「大道芸人あまるらしい」制度も導入した。

一人の大道芸人が、自分のパフォーミング空間について突き詰めて考え実践し

た一つの表れとして「あまるラボ」は成功したと言えるのではないだろうか。公演が終了し、伽藍博物館演劇実験室をあとにしようとする時、あまるはボソツと呟いた。「第二弾は『黄昏ドッグ』ではなく『街角グラグラ』、おそらく」

「文と写真 さぼ子」



写真右頁・スランプ悲劇  
上・コメディホラー寸劇  
それぞれよりワンカット

## 路上の standing ovation

～ドキュメント 大道芸のまちづくり～

#5

○四年十二月十六日、静岡市役所静岡総合事務所にて、「歩行者天国における大道芸の道路使用に関する打合せ会」の第一回目の会議が行われた。これは、「しずおか大道芸のまちをつくる会」（通称「しまる会」）が要望してきた「歩行者天国道路での大道芸の公認化」について静岡市や商店街の承諾書など必要書類が揃ったのを受けて、静岡市健康文化部イベント推進課の梅原誠参事が音頭をとってこれて実現した。

会議に出席した関係者は、青葉学区区連合町内会、市商連、呉服町名店街、呉六名店街、紺屋町名店街、七間町名店街、けやき通り発展会、大道芸ワールドカップ実行委員会、しまる会、静岡中央警察署、市土木管理課、市商業労政課、市イベント推進課（以上順不同）、それぞれの代表者であった。会議は緊張した雰囲気の中始まった。お互い誰がどういう意見を持っているのか、「ホコ天開放」に賛成なのか反対なのかすら分からない。まず、会議の方向性を決めるような発言をしたのは、静岡中央警察署の交通指導課交通規制係長・小野塚裕紀警部補だった。（「ホコ天での大道芸について」

署内でも検討の結果、車も通らないので支障ないだろうと。ただし、道路使用の根拠が必要です。露店商や路上販売など、取り締まりの対象となる紛らわしいものが出てくる可能性もあるということですね。で、（大道芸人が）個人ではなく、団体として申請してほしい。そのへんをクリアすれば何とか行けるんじゃないかと」

大きく道が開けた、と私は思った。警察の道路使用許可なしには話が進まないが、そこは何とかなりそうだった。

しかし、商店街の反応は、従来の通り、渋いものだった。例えば呉服町の代表は、

「（大道芸中の）事故の問題が心配なので、商店街が道路使用（許可）を出すということはできない」つまり、商店街に責任問題が全く及ばないのならないですけど、という発言だった。七間町や呉六も、普段から商店街同士の交流があるようで、お互いの顔色をみながら、横並びの発言が続いた。そんな中、けやき通り発展会だけが、非常に前向きな姿勢を見せてくれた。

「けやき通り発展会としては、（大道芸を）全面的に受け入れたい。やりたい人を束ねるような仕組みさえ作ってくれば」

そうだよなあ、普通は商店街ってこういう風に乗ってくれるんじゃないの？と思う私は大道芸に最層が過ぎるのであるか。

この日の会議は、終始このようにな立ち位置で進められた。呉服町をはじめとする街の古い商店街が

ホコ天開放の際の問題点について質問をし、しまる会の私ができるような対応を出来るのか答える。そしてときに答えに詰まる私を、大道芸ワールドカップ実行委員会の杉山元委員長がフォローする。また、けやき通りも、商店街だって前向きなんだぞと言わんばかりに、実現に向けていと引張る。

最終的に、いくつかの課題を呈示してこの日の会議は終了した。課題は、以下のようなものだった。一、大道芸の現場にスタッフをつけること。歩行者通路の確保や事故が起きたときの対応のため。二、パフォーミングの申し込み窓口の一本化。路上販売との区別や身元の確認のため。三、事故があつた場合に商店街に責任がふりかからないような対処

\* \* \*

○五年一月十三日、しまる会の月例の会合で、ホコ天大道芸のシステム作りについて話し合った。スタッフの配置はどのようにしたら可能か。パフォーミングの登録システムについて。ホコ天利用の最低限のルール。それらを文書化し、一月十九日、市役所の梅原さんと大道芸ワールドカップの杉山委員長、そして私の「推進派」三人の会合の席に持っていた。ホコ天利用のシステムについては、しまる会の案がそのまま叩き台として使われることになった。

前回の「打合せ会」で課題として挙げた「商店街への責任問題」

については、しまる会がホコ天大

道芸の主催者として保険会社の傷

害保険に加入することで、商店街

の懸念を払拭することにした。保

険については、梅原さんが、大道

芸ワールドカップのときに契約し

ている保険会社に連絡をとって調

べてくれた。また、梅原さん

は、警察とも具体的に話を詰めて

くれており、「ホコ天開放」とい

えども、警察組織の事情から「道

路使用許可」は二週間に一度申請

しなければならぬこと、申請の

度に手数料二千三百円がかかるこ

とが分かった。

それら手数料や保険加入に必要

となる資金の工面は、杉山委員長

が引き受けてくれることになった。

発表し、また商店街からの質問、

それについて三者を中心とした応

答が繰り返された。

会議は押し引きの引いたりの末、

結局三者会談で決めた内容がほぼ

そのまま決定事項となった。しま

る会の念願であった「ホコ天大道

芸の公認化」が決定したのであった。

開放の場所は、静岡市内のホコ

天全てとなった。ただし、それぞ

れの商店街から「承諾書」を取っ

て使用するという形だ。

使用の段取りを簡単に説明する。

一、しまる会は、商店街の承諾書

を添えて、警察に道路使用許可の

申請をする。

二、パフォーマーは、しまる会に

ホコ天大道芸の「登録」をし、実

さて、当初はけやき通りでの大

道芸を「様子見」していた呉服町

はじめ古い商店街は、四月からホ

コ天使用の承諾書を出したいとい

うことでしまる会に連絡があった

しかし、しまる会としては、今

のところ呉服町での大道芸には取

り組んでいない。その理由は、ま

だけやき通り大道芸の運営にも不

慣れな状態なので、そちらがしつ

かりと根を張ってから新たな場所

を増やしたいということだ。

今回の「ホコ天開放」が、いつで

も大道芸が見られる「大道芸のま

ち」づくりへの大きな一歩になっ

たことは間違いない。

しかし、二週に一度の道路使用

許可申請など大道芸を行うための

許可申請など大道芸を行うための

手続きに手間がかかったり、実働

スタッフの少ないしまる会の負担

が大きかったり等、まだまだ改善

すべき問題点もある。

そして何より、今は舞台がよう

やく用意されただけであり、そこ

に私たちがどのような「大道芸文

化」を築いていくかということが

大切なのだ。

「大道芸文化」とは何だろう、と

私は考えることがある。文化をイ

メージするのは難しいが、大道芸

の現場では、それが観客の「観る姿

勢」に表れてくるように思う。例

えば、大道芸ワールドカップの観

客の「楽しむぞ」という雰囲気。

それが一年を通じてあるまじ、そ

それは「大道芸のまち」と呼ぶにふ

さわしいのではないだろうか。

パフォーマー募集!

当会では、パフォーマーマン

スをしてくれるパフォーマーを

随時募集しています。

プロ・アマ、ジャンルは問

いません。お問い合わせ等、

お気軽にどうぞ!

サポーター(会員)募集!!

当会は、静岡の街なかで日

常的に大道芸を楽しめるま

ちづくりを目指しています。

会の活動を応援してくれる

サポーターを大募集中です!

サポーターのみなさんには「し

まら」をおか大道芸新聞」をお届

けします。

年会費は、一口五百円(年度

単位)で、お一人様何口でも!

新聞スタッフ募集!!!

しずおか大道芸新聞の編集

スタッフを募集しています。

単発の投稿や連載企画、イラ

スト等も大歓迎!

興味のある方は、お気軽に

お問い合わせください。

新聞へのご意見やご感想も

お待ちしております。

しずおか大道芸新聞

第十五号

二〇〇五年五月十二日発行

発行部数二〇〇部

編集・発行

しずおか大道芸の

まちをつくる会

http://www.geocities.jp/sizuoka\_simarukai/

編集長 ミーコ

### 大道芸いんふお

あさがお祭り

場所 静岡市清水区入江町法岸寺

日時 七月二十四日(日) 十時半、十一時

出演者 ミーぶるーす

☆2005

アクトガレリア大道芸

場所 アクトタワー二階 (入場無料)

開催時間 一回目 一三時~一五時半

二回目 一五時~一七時半

五月二二日(日) Kaja

六月十二日(日) 風船太郎

六月二十六日(日) サンキュー手塚

七月十日(日) アパッチ

七月二十四日(日) 山本光洋

☆週末大道芸情報

けやき通り・青葉通りの出演予定者は

しずおか大道芸のまちをつくる会の

ホームページにてご確認下さい

http://www.geocities.jp/sizuoka\_simarukai/

しずおか大道芸いんふお

毎週金曜日 二十一時頃

場所 青葉シンボルロード

Amusement Tao

路上ライブ

※詳細はホームページにてご確認

ください

http://www.taoweb.org/

「インフォ担当:チャリ」

編集長 ミーコ

http://www.geocities.jp/sizuoka\_simarukai/

二〇〇五年五月十二日発行

発行部数二〇〇部

編集・発行

しずおか大道芸の

まちをつくる会